



TITLE:

獨逸の地理學界(四)

AUTHOR(S):

寺田, 貞次

CITATION:

寺田, 貞次. 獨逸の地理學界(四). 地球 1929, 11(2): 123-129

ISSUE DATE:

1929-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183559>

RIGHT:

山に通ずる裂罅線であつて、其の線上に森島鎔岩及び山房岩の噴出がある。然して是等のアルカリ粗面岩はI及びIIの裂罅線上の弱處を破つて噴出したものであつて、其の鎔岩が粘性に富めるため或は圓頂丘(Dome)をなし或は尖圓錐丘(Kegel)をなして居るものと惟ふ。(完) (昭和三年十二月廿六日稿)

獨逸の地理學界 (四)

寺 田 貞 次

一〇、ハンブルク大學

伯林滞在は一ヶ年餘に及んだが、伯林大學での聴講に寸暇なき爲め、比較的旅行も出來ず、ハンブルグの如き、獨逸の大港たるのみならず世界の大港でもあり、又附近には有名なキールもあり、是非視察しなければならぬと思ひながらも、遂に其の機を得なかつた。恰も知人が遠く海外に出かけると云ふので、見送りを兼ね、ハンブルクを視察した、大學を訪問したのも此の時である。

漢堡大學にては、地理ゼミナール Seminar

Für Geographie は別に建つられて居る、本館の北町餘の處 Rothenbaum Chaussee(21)街に位して居る、普通民屋と軒を並べたる三階造の建物で街路から少許の庭を以て二三老樹の陰靜かに立て居る。

階下は數學科教室階上が地理に充てられて居る。主任は Siegfried Passarge 教授で、助手に Helmuth Kanter 氏が居た。教授はケーニクスベルクの人一八六七年の生れ(慶應三年)最初醫術を學び、カメルン、南阿、ベネジエラ等を旅行し、リヒトホルヘンの影響を受けて地理學を究

第十圖



學大ゲルアンハ

め、一九〇三年には伯林大學に於ける地學の教授となり、後又アルジェリア・サハラ・埃及を視察し、一九〇八年以來當大學教授として居る。Kalahari (1904), Der Buschmann (1906), Südafrika (1907), Vervivierung u. Abtragung in den Steppen. u. Wüsten

Algeriens (1910), Physiol Morphologie (1912) Morph Atlas (1914), Die Grundlagen der Landschaftskunde (1921), Die Landschaft (1921), Erdkunde. Wanderbuch (1922), Landschaft u. Kulturentwicklung (1922), Landschaftsgürtel der Erde (1923) など其の著書非常に多い。幸御在室面會申す事が出来た。丈の高い、教授の案内で縦覽する、容貌怪異ではあるが、極くやさしい方で、教室内を詳細案内して下した。

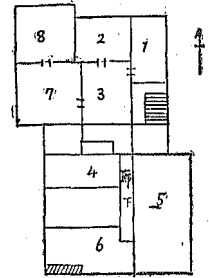
(1)は主任教授室小さい餘り明るくもない室ではあるが机やソファアなども備えられ、地學者の寫眞像や教授の親しく研究された、阿弗利加の地形に關する寫眞や、自筆の風景畫などが掲げられて居た。

(2)は事務室で、稍明るい、二名の婦人が熱心事務に従事して居り、幻燈用のフィルム製作などやつて居た、又石膏製の模型の如きも、此處で造られる様子であつた。

(3)は標本室、各種の浮彫圖や、地形を示す模型類が處狹き迄陳列されて居る。當教室製作

て其主任をつとめて居られる、地形に重きを置きて研究せられ、此の方面に於ては獨逸中第一人者と稱せられて居る。Kalahari (1904), Der Buschmann (1906), Südafrika (1907), Vervivierung u. Abtragung in den Steppen. u. Wüsten

第十二圖



漢堡大學地理

セミナル

の品も多い
様で、諸威
のフイヨル
ド、ヘリゴ
ーランド、
亞米利加海

岸の模型など注目すべきものも少くなかつたが室内暗黒で充分に見る事の出来ないのは遺憾であつた。

(4)は助手の室、目下 H. Kanter 博士の室になつて居る。

(5)は圖書室で周壁に書棚を充たし、地學總論より各國別に蒐集されて居る、然し其の規模は差程大きくもないカタログ箱も一隅に備えてあつた。

(6)アルバイト室で、アルバイト用机數脚を置き、周壁に沿うて地質標本や、火山噴出物などが置かれカール、リッターの畫像は此處に掲げられて居た、伯林大學の教室にあるものと同一品である。

(7)は地圖所藏室で、數個の地圖箱を備え、更に紙包裝置で丁寧に保存して居る、此處には幻燈の設備もあり、次の教室(8)備付の白布に映ずる様になつて居る一寸かはつた裝置で珍らしい。

要するに、此の研究室は地理學用として特に建てたものでない爲めに、室數は可なり多く在るにも拘はらず、何れも暗黒陰鬱で、地理の研究室としては、聊か不適當な様な思があつた、然し設備はよく整て居り教授の如きも地形學の一人者たるバツサージ教授を初め、シュルツ教授 Arved von Schultz も居る、教授は一八八三年の生、ヤーセン、伯林に學び、一九〇九年より同五年迄、一九〇八年、一九一一年より二年迄、露西亞、高加索、トルキスタン、バミール地方を踏査し、著書として Die Pamiradachik (Glessen 1914), Landeskunde Bilderatlas von Polen (Berlin 1918), Volkskunde von Polen (1918), Die natürlichen Landschaften von Turkestan (Hamdurg 1920), Kaschgur (Hamdurg 1921) 等

を有し、一九一九年以來當大學に來られた經驗家であるから、研究室は例へ陰鬱であるとは云へ、此の良教授を有する地學教室は幸福と云はねばならぬ、自分の訪問した時はバサージ教授は専門の *Landchaftskunde* を初め經濟地理を講せられ、シユルツ教授は數理地理、海洋學を擔當せられ、其の他リユートゲン博士 *Lütgens* が南米の經濟地理を、カンター博士が阿弗利加の經濟地理並にトボグラフィーの演習を擔當して居た、ハンブルグは港灣地でありますからして經濟地理を初め海洋に關する研究に重きを置いて居ることが知られ、此の方面の研究家にとつては有利な研究所であらうと考へた。

尙漢堡に近きキール大學が在り、經濟地理の著述を以て早く知られた、エッケルト教授 *Friedrich Eckert* の居る處であり、又經濟地理の研究には是非必要な世界經濟 *Weltwirtschaft* 云ふ雜誌を出す研究所もあるので、立寄る考であつたが、マッサージ教授の御話に依ると、エツケルト氏はアーヘンの高等工業學校に轉任さ

れ、後任教授は目下メキシコ御旅行中と聞いたので、視察を中止した。

序にエツケルト教授は、ケムニツツの人、一八六八年の生、ライプチヒで地理並に國民經濟を研究し、歐洲大陸内を踏査し、經濟地理と共に交通地理並に地圖學の研究を以て自ら任じ、最初ラツツェルの助手をつとめ、後キール大學の地理を擔當され、一九〇七年以來アーヘン高等工業に轉じ、今に及んだもので、著書として有益なものが少くない、重なるものを舉げると

Das Karrenproblem (Leipzig 1895)

Neuer meiß. Schulatlas (Halle 1888, 1917)

Grundriss der Handelsgeographie, 2Bde. (Leipzig 1905)

Leitfaden der Handelsgeographie (Lipzig, 1905)

Geogr. Praktikum (Leipzig 1908)

Deutsche Kulturgeographie (Halle 1912)

Wirtschafts atlas der deutschen Kolonien (Berlin 1913)

Die Kartenwissenschaft (Berlin 1921)

十一、伯林大學

地理學の元祖と稱せらるゝアレキサンダー・フォン・フンボルト *Alexander von Humboldt*

並に其兄弟のウイルヘルム・フォン・フンボルト Wilhelm von Humboldt (1767—1835) の努力に依つて發達した大學であり、眞に近世地理學の建設者たるカール・リッター Karl Ritter の初めて地理を講じた大學であるので、地理にとつて

第二十圖



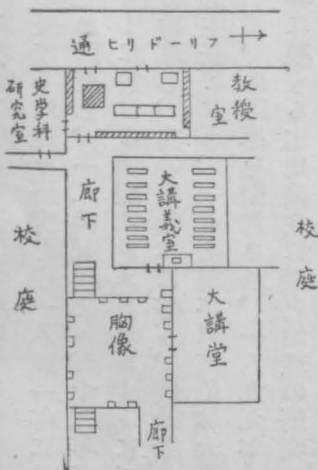
ラッペンケンの墳墓

は最印象の深いものである。従て地理の研究室の如きも獨逸國各大學中最完備せるものと觀察される。此の大學では、地理科は從來の慣習

で史學科の一部に置かれて居るのと、史學とは全く獨立した地理學科とがある。

歴史科の一部に屬する方は、大學本館、歴史科の研究室と並んで設置されて居り、本館正門を入ると、其二階の中央は大講堂で、其の前には本大學に教鞭をとつた大家の胸像が並んで居る。京都大學の三浦文學博士が同大學訪問の際の温顔も此處に在る。此の大講堂を西(左側)に行くと、其の突當りが地理の研究室で、丁度歴史研究室の隣に當て居る Historische Seminar

第二十二圖

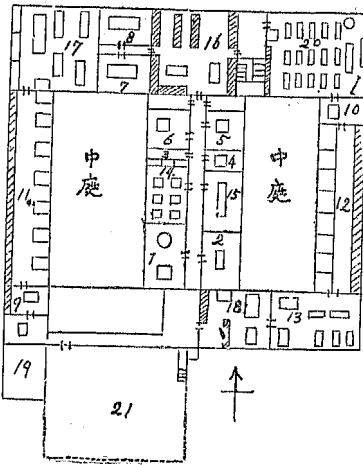


柏林大學歷史地理研究室

とかくれてある。五間に七間もあらう、だいぶ
廣い室で、一方はフリードリッヒ街に面し明る
い室である、周壁に書棚を、一方の側に地圖箱
を備へ、窓に接して教授及び助手の机を置き、
室の中央には長形の卓子が三脚許用意してあつ
た、書籍は全部歴史地理に關する參考書で、郷
土地理、政治地理關係書も備つて居る。

歴史地理と申すと思ひ浮べるのは、ハインリ
ヒ・キーペルト Heinrich Kiepert である、伯林

第三十二圖



伯林大學地理學系主任之圖

の人、一八一八年七月三十一日生、伯林に學び、早く地

學並に地圖に興味を有し、カールリッターの影
響を受けて地理を研究し、一八四一年には小亞
細亞を踏査し、一八四五年より五十二年迄、ワ
イマーに於ける地理インスチテュートにて地圖
學を指導し、其の後伯林に移り、統計學會の地
圖部主任となり、一八七四年以來伯林大學教授
として、地理學を擔當され、一八九九年四月二
日伯林に歿する迄地圖並に歴史地理の研究に従事
し、其の著す處の圖書は廣く用ゐられてゐる。

Atlas von Hellas, 24Bl. (Berl. 1841—43, 新版 15Bl.

1867—72)

Karte von Kleinasien, 6Bl. (1844, 1854)

Atlas zu Ritters Asien, 8Bl (1852—54)

Karte des top Amerika, 6Bl. (1858)

Atlas antiquus (1859)

Handatlas (1860)

Lehrbuch der alten Geographie (Berlin 1878)

Generalkarte der Europe, Türkei, (1880)

此のキーペルトも居た處であり、目下はフオゲ
ル教授 Walther Vogel が其の後を受けて、歴史
地理を擔當して居る、最近 Das neue Europa

(1925)を著した方で、自分の在學中には都市の地理的變遷を講じて居られた。演習の如きも此の研究室で行はれて居た、尙地圖及び地方誌の研究にはクレッチマー教授 Konrad Kretschmer が居る、氏は伯林の人一八六四年四月二日生、當大學にて、キーペルト並にリヒトホーフエンの教を受け、地理を學び、専ら歴史地理の研究に従事し、一八九三年來伯林大學教授として、現今に至つたもので、殊に地圖の研究は其の得意とする處

Die physische Erdkunde in Christl Mittelalter (Wien

1889)
Die Entdeckungen Amerikas (Berlin 1892)
Historische Geographie von Mitteleuropa (München 1904)
Die ital Portolane des Mittelalters (Berlin 1909)
Geschichte der Geographie (Leipzig 1912)
など、有益な著書が多い、自分の在學中にも地圖の發達史に歐羅巴の地誌を講じて居た、極く體格のよい、稍無愛想な様子で、講義の如きも餘り學生の興味を引かない様子に見受けられ折角の御講義には聊か御氣の毒の感があり、つとめて出席した。

地球 第拾卷 第六號 會員名簿 正誤

京都帝國大學農學部農林工學教室

小樽市小樽中學校

朝鮮京畿道振威郡梧城面安仲里、安仲里公立普通學校

會員名簿に右三名を脱す茲に加入す

誤

正

静岡縣富士郡富士小學校 野島多藏

静岡縣富士郡富士高等女學校 野島多藏

獨逸の地理學界

三元

四五

齊 藤 仁

牛 山 喜

速 間 森 信